

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成
- ② 主体的に学習に取り組む態度の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 三倉 幸夫	委員	校長 : 西山伸二
	教頭	大西仁史 板東義明
	学年主任	新見睦恵 佐藤健志 原口良澄

校長

西山 伸二

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的基本的な知識・技能の習得のため、課題に真面目に取り組む生徒が多い。 ●学力に二極化傾向が見られ、読解力に課題がある。	・授業で学習した内容を理解することができる。 ・基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。	・毎学期、互いに授業参観を行い、授業のまとめ方について工夫する。 ・基礎的基本的な知識・技能習得のため、プリント等を使って基本練習を継続する。 ・基礎学力テストやステップアップテストを活用して、既習内容を復習させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○知識・技能を活用して課題を解決しようとする意欲がある生徒が多い。 ●根拠や理由を考えて表現することが苦手な生徒が多い。	・文章や図、表の内容を理解して、判断することができる。 ・授業で学んだことをもとに、自分の意見を根拠や理由を考えて表現することができる。	・思考力を深めるための発問をして、互いに意見交換したり、ICTを効果的に活用して発表したりする学習活動を増やす。 ・根拠や理由をわかりやすく表現する学習活動を全教科で取り入れていく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒が落ち着いて授業に取り組むことができる。 ●家庭でのゲーム、スマホの時間が長く、家庭学習の習慣が定着していない生徒が多い。	・各教科の授業で、自分がわからないことや疑問に思ったことをすすんで質問したり、調べたりすることができる。 ・目標を持って授業に取り組む、自主勉強ノートや宿題を毎日することができる。	・学習の遅れがちな生徒への個別指導を増やし、質問しやすい態勢をつくる。 ・わからないことを調べる方法を助言して、自分で調べようとする態度を育てる。 ・自主勉強ノートやワーク等を定期的に提出させ、確認して助言・指導を行う。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

